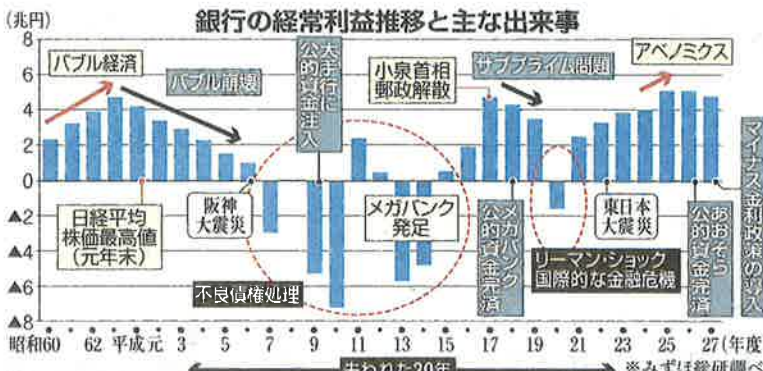


2017/5/31, 水, 1p

銀行は過ち繰り返すのか

平成
30年史

第5部 バブル、それから①



史上最高値をつけた平成元年12月29日の日経平均株価を示すモニター(上)と高値に沸く証券マンら＝東京証券取引所

平成27年に相続税制が改正されたのを機に、銀行の「アパートローン」を利用する人が急増した。アパート経営のノウハウを持った代り、貴重な収益源だ。

だが、人口減の地方にはアパート供給が過剰な地域に金を出し込んだ銀行に、空前の好景気に踊ったバブル時代。狂乱をおおったのは、土地を担保に無節操に金を貸し込んだ銀行にほかならなかった。崩壊から四半世紀が過ぎた今、再びの貸し込み。銀行の本質は変わっていないのか。

「多くの行員が要求していた。当たり前のことだった。元行員はそう明かす。個人に融資2兆円」

異常なビジネスが成り立った時代。「土地、ゴルフ会員権は、転売すれば必ずもうけが出る」と誰もが信じて疑わなかった。

「ロマコンのピンドン割り」。高級ワイン「ロマネコンティ」を高級シャンパン「ドンペリニオン」のロゼ（通称ピンクのドンペリ）で割って飲む。当時破格の500万円を超える高級車が売れる「シマ現象」などさまざまなバブル用語も飛び交った。

その陰で大阪・ミナミでは一介の料亭の女将、尾上縫に銀行員や証券会社社員が2兆円以上ともいわれる貸し付けを行ったことに端を発する巨額詐欺事件が起きた。平成2年には、中堅商社のイトマンを舞台に、主力銀行の住友銀行（現三井住友銀行）を巻き込んで3千億円が闇の勢力に流出する事件も発覚した。

「銀行は反社会的勢力とも関係を持つ時代だった。当時、住銀取締役だった国重淳史（71）はそう振り返る。（敬称略）」

バブル絶頂とともに幕を開けた平成の世。狂乱景気の崩壊と「失われた時代」は現代に何を残したのか。

狂乱から四半世紀 土地への貸し出し再び過熱

不動産は天井なし

肩パットの入った派手なスーツに大きな携帯電話。人気芸人、平野ノラがコミカルに演じるバブル時代は、平成の世とともに最高潮を迎えた。

「貸し出しは不動産を担保に取れ。不動産の価格は天井知らずなんだから」

第一勧業銀行（現みずほ銀行）に入社して2年目だった男性は、入社直後の研修で右肩上がりの地価グラフを示され、教えられた。

企業への融資を手がける花形の「法人営業部」に配属された。中小・零細企業の経営者への財テクの指南も請け負った。融資の見返りに、つきあいの深い不動産業者が持つリゾート地のコンドミニアムや別荘を買わせ、住宅ローンの契約を結ばせた。

数千万円から数億円の融資の裏書きを毎日何枚も作る。支店長はわずか5分で決裁を下した。「土、日は担保の土地、建物を自分の目で見て回った」。仕事は大変だったが、活気に満ちていた。中元・歳暮が自宅に30件以上届く。母親が驚いて「立派な会社に入ったのね」と褒めてくれた。

別の都銀でも、従業員が3人しかいない不動産会社に一度に3億円を融資する裏書きが簡単に通った。通算で20億円に達する過剰融資。行員は不動産業者にキツクバックを要求した。

「多くの行員が要求していた。当たり前のことだった。元行員はそう明かす。個人に融資2兆円」

異常なビジネスが成り立った時代。「土地、ゴルフ会員権は、転売すれば必ずもうけが出る」と誰もが信じて疑わなかった。

「ロマコンのピンドン割り」。高級ワイン「ロマネコンティ」を高級シャンパン「ドンペリニオン」のロゼ（通称ピンクのドンペリ）で割って飲む。当時破格の500万円を超える高級車が売れる「シマ現象」などさまざまなバブル用語も飛び交った。

その陰で大阪・ミナミでは一介の料亭の女将、尾上縫に銀行員や証券会社社員が2兆円以上ともいわれる貸し付けを行ったことに端を発する巨額詐欺事件が起きた。平成2年には、中堅商社のイトマンを舞台に、主力銀行の住友銀行（現三井住友銀行）を巻き込んで3千億円が闇の勢力に流出する事件も発覚した。

「銀行は反社会的勢力とも関係を持つ時代だった。当時、住銀取締役だった国重淳史（71）はそう振り返る。（敬称略）」

バブル絶頂とともに幕を開けた平成の世。狂乱景気の崩壊と「失われた時代」は現代に何を残したのか。

3面に続く

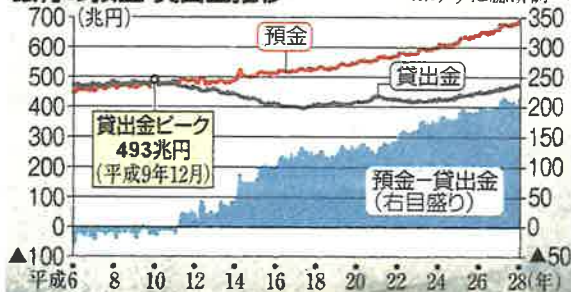
土地暴落「血は出ても金出せぬ」

行員「精神までずさんでいた」

平成
30年史

1面から続く

銀行の預金・貸出金推移



日本長期信用銀行株の取引停止を示す東京証券取引所のボード。長銀破綻をきっかけに貸し出しが減った＝平成10年10月23日

土地価格が暴落。医師にはパブル全盛期に、前任者が「相続税対策に」とアパート経営を勧め、ローンで別荘も購入させていた。娘は私大医学部に入学生たばかり。土地を手放しても返済額には遠く及ばない。医師は、行員が「元本だけでも」と返済を切り出した直後に激高してキッチンから包丁を持ちだし、机に突き立てたのだった。

「なぜあんな非情な言葉が出たのか。すべてが異常だった。わずかな数年間でパブルに浮かした。血は出ても、お金は出ませんよ」

行員は顔色一つ変えずに、そう言い放った自分に驚いていた。土地価格が暴落。医師にはパブル全盛期に、前任者が「相続税対策に」とアパート経営を勧め、ローンで別荘も購入させていた。娘は私大医学部に入学生たばかり。土地を手放しても返済額には遠く及ばない。医師は、行員が「元本だけでも」と返済を切り出した直後に激高してキッチンから包丁を持ちだし、机に突き立てたのだった。

平成4年夏。セミの鳴く声が暑さを増幅させる都内の高級住宅街。パブルが崩壊し、世の中の空気は一変していた。

都銀の男性行員は、リビングのテーブルに突き立てられた包丁を挟んで、返済に窮する開業医の男性と向かい合っていた。

「血は出ても、お金は出ませんよ」

行員は顔色一つ変えずに、そう言い放った自分に驚いていた。

「反社会的勢力との関係も見つからないように工夫しろ」。

そんな密命も下された。通常の神経ではいられなかった。

パブル崩壊直後、栄華を極めていた金融マンを取り巻く状況は一変した。土地の暴落をおおったと批判されたうえ、その後も給与水準が高い銀行員への風当たりは強かった。

「護送船団方式に守られ、市場原理にそぐわない銀行まで救済する必要はない」との主張が主流。長銀は、いちろの望みを

1992

「沈みかけた船から逃げたみつもえないネズミめ」

3兆円にのぼる不良債権を抱え、平成10年10月に国有化された日本長期信用銀行(現新生銀行)。

直前に外資系企業に転職した男性は、東京・大手町で偶然出くわした長銀時代の上司から罵声を浴びせられた。

長銀に残っていた同期は、日比谷公園近くにあった下層階がくびれたユニークな外観の本店ビル会議室に一人で籠もり、作業に追われていた。

書類の改竄。金融庁の検査を前に専従で作業に当たられ

1998

「金融マン栄華一転」

「託した住友信託銀行(現三井住友信託銀行)との経営統合も拒絶され破綻。国は経済への影響を恐れ公的資金の投入にかじを切るが、都市銀行は、最終的に現行の3メガバンクグループに集約された。『失われた10年』は、いつしか『失われた20年』と言い換えられた。」

「多重債務の温床」

「銀行だと思って、安心して気軽に500万円を借りてしまった。気がついたら借金が膨らんでいた」

今年5月、多重債務者からの相談を受け付ける「夜明けの会」(埼玉県桶川市)に、男性から電話がかかってきた。銀行が無担保で貸し付けるカードローン。こうした相談は多重債務者の半分近くを占めるという。

カードローンは今やアパートローンとならぶ銀行の収益源だ。貸付残高は年々増加し、メガバンク3行の今年3月末の貸付残高は計1・6兆円にも上る。住宅ローンや企業向け融資の金利が数%しか得られないなか、十数%の高利が見込める。過去の「サラ金地獄」の経験から、各行は3月以降、自主規制に乗り出しているが、窓口にカードローン会員の獲得ノルマを課す銀行もある。

「多重債務の温床となる」。

同会の事務局長、井口鈴子(70)はそう批判する。

再び行われる貸し込み。かつて公的資金で救済された銀行は、「格差」「貧困」「年金不信」といった暗い言葉の中を生きるタックスペイヤー(納税者)に何かを還元しているのだろうか。

「高度成長期に銀行が企業再建に力を出せたのは、社会全体にお金足りなかったからだ。金があるときの銀行は何の役にも立たない」

大蔵省(現財務省)銀行局長を務めた西村吉正(76)は、銀行の限界をそう表現する。(敬称略)